



道教委に要請する真下議員、菊地議員、能登谷議員

せる新学期に担任がいらないのは  
児童生徒の生活の基礎を揺るが

## 新学期に担任がいらない！

### 旭川市議団とただちに調査・改善求める

新学期に担任の先生が配置されずに臨時担任で対応するとい  
う前代未聞の事態が旭川市で発覚。背景に深刻な教職員不足が  
あります。真下紀子議員と共産党旭川市議団は、ただちに旭川  
市教育委員会と道教育委員会に調査と改善を要請しました。

真下議員は「希望と夢膨らま  
す由々しき事態です」とのべ、  
6日、共産党旭川市議団（団長  
能登谷繁議員）とともに、学級  
担任の正常配置を行い教育環境  
を整えるよう旭川市教委に求  
め、全道的な調査を道教委に依  
頼しました。

旭川市の赤岡教育長は「たい  
へん憂慮している。把握してい  
る臨時担任はただちに改善した  
い」とのべ、教職員不足への対  
応についても意見交換。真下議  
員はこれを受けて10日に道教委  
に対し改善を要請しました。  
道教委の土井寿彦総務政策局



旭川市教委に要請する真下議員と市議団

2年以上勤め  
た人を採用す  
る新たなしく  
みを実施。道  
外採用などな  
お一層の努力  
が必要」と答  
えました。

真下議員は深刻な教職員不足  
の背景に過酷な就業環境と道教  
委による採用の少なさを、免許更  
新制度の影響などがあり、高校  
でも専門教科担任の不足が深刻  
と指摘。土井局長は「期限付で

長は「期限付・産休・育休代替  
教員が全道で75人不足、欠員は  
全道的課題」とのべ、想定を超  
える辞退や大学院への進学が多  
く対応しきれなかったと説明し  
ました。5月1日までに対策を  
とると表明したものの上川で3  
人、留萌で5人充足しきれず、  
全道で21人欠員のままです。

## 新「北海道史」にアイヌの歴史研究成果盛り込む

### 真下議員の質問に 知事答弁



忠別川で行われたカムイチェップノミに参加



サケの稚魚を放流する真下議員

真下紀子議員は3月14日の予算特別委員会、アイヌの  
歴史を最新の知見で北海道史に反映するよう求めました。

北海道命名から150年です  
が、先住者アイヌにとっては苦  
難の歴史でもありました。真下  
議員は「09年の国連先住民族宣  
言、国連決議などを契機にアイ  
ヌ民族をとりまく社会情勢が大  
きく変化。すべての人権と基本  
的自由、平等と差別されない権  
利、自決権が掲げられた新たな  
視点で新北海道史に反映するよ  
うに」求めました。

道はアイヌに関してこれまで  
「困窮を余儀なくされた」と答  
えてきましたが、新たに「アイ  
ヌの人たちは明治期以降の国  
様々な施策により伝統的な生活  
や生産の手段を失い貧困に喘ぎ  
また近年に至るまでいわれのな  
い多くの差別を受けてきたとい  
う歴史的事実があった」と認識  
を深めて答えました。

高橋はるみ知事は、50年ぶり  
となる18年度からの  
新「北海道史」編さん  
の中で最近の研究成果  
も盛り込みながら新た  
な編さんに取り組むと  
表明しました。  
関係者からは「新道  
史にアイヌが先住民族  
とその正しい実態が記

述されることは嬉しい」との喜  
びの声があがっています。

また、アイヌの遺骨について  
「先住民族であるアイヌに対す  
る研究は他者の文化を議論して  
いるという意識にかけ、先住民  
族の声を聞いてこなかった側面  
がある。アイヌが遺骨等に有す  
る権利を尊重することが重要」  
と指摘されていると質問

道は「アイヌの遺骨の早期返  
還の実現に向け引き続き国に働  
きかける」と答弁しました。

4月1日、忠別川でサケの放  
流が行われ真下議員が参加  
道内河川でアイヌの伝統的漁  
法によるサケの捕獲は12件行わ  
れており、自然産卵したサケが  
のぼりはじめた旭川でもアイヌ  
の伝統的漁法でサケを捕獲し儀  
式を行いたいという要望が出て  
います。

# 地方公共交通・広域交通の役割重視を 新幹線の赤字対策・損益分岐点の明示求める

北海道交通政策総合指針に鉄道網の考え方が追記され、富良野線の上川・十勝の圏域間を結ぶ位置づけと、室蘭線の物流等が加えられました。真下議員がこれまでとりあげてきた圏域を結ぶ広域交通の役割が位置づけられました。

## 長距離移動のため存続を

新しい指針にはインバウンドへの対応が最初に示されています。真下議員は「道民が日常利用するための地方公共交通としての役割を後景においてはいけない」とただしました。道は「どの項目も重要」といい

つつ、交流人口の増加を全道に波及するため他の交通モードとの利便性向上に向け検討すると答えました。根室線富良野・新得間だけでなく、旭川から帯広・釧路間等広域の利用拡大を検討するよう求めました。

## 赤字の犠牲にしないで

真下議員は、3月に示されたJR北海道の事業計画で新幹線の収入減6億円の見込に対し「北海道新幹線は乗車率が低下し54億円もの赤字、さらに新駅の新たな負担などが見込まれ

るが地方路線を赤字の犠牲にしてはならない」と主張。「損益分岐点や乗車率など、計画の詳細な指標を示すよう求めるべき」と提案しました。

## 結論急がず路線維持を

交通政策局長は「収益改善の目安となる目標数値なども明らかにされるようJR北海道に求めていく」と答えました。

## 結論急がず路線維持を

地域協議会はどこも結論を出していません。JR北海道の経営努力と見通しも国の支援のあり方も判然と

しないまま、概算要求に合わせて結論を急ぐのは強引と批判。「JR北海道の経営問題だけで判断してはならない。広域分散型で高齢化が進む本道で長距離移動を余儀なくされる、あずましい移動手段として鉄路を維持存続させていくことの必要性を肝に銘じて透明性の高い議論とすること」を求めました。

知事を含む関係者の会議を11日に開催するとし、黒田交通企画監は「まず情報を求め、地域に伝え、地域協議を加速させていきたい」と答えるにとどまりました。

道はJR貨物の地域協議会への参加を働きかけていくと表明。線路使用料について実効ある支援を国に求めていくと答弁しました。

# 経産局ニセコ高校公開授業へ圧力

## 教育への国の不当介入に抗議

昨年10月、ニセコ町立ニセコ高校のエネルギー教育モデル校の公開授業の際、北海道経済産業局幹部が講師を務める北大助教の

研究室を訪ね、授業内容や福島第一原発の水素爆発時の写真の変更を求めたことに、町民から「教育への不当介入だ」と批判があがりました。

真下議員は4月9日、北海道経済産業局を訪ね教育への不当な介入に抗議しました。対応した資源エネルギー環境部長の八木雅浩氏は「エネルギーの長所短所が公平に扱われ必要がある」と言及したと説明。

真下議員らは「原発の過酷事故は時間的にも空間的にも被害は甚大。他の電源事故とは全く性質が違う。並列に扱うべきではない」と厳しく抗議しました。

# 日米共同訓練中止を求める

4月24日からF16戦闘機6機が本道に飛来する日米共同演習が始まりました。F16は米国で墜落、三沢基地

所属では湖に燃料タンク落下事故があったばかりです。日米軍事訓練は道民のくらしと安全を脅かすもので断じて受け入れられませんが、日本共産党道議団は同日高橋はるみ知事に訓練中止を要請しました。

辻井宏文危機対策局長は口頭で安全の徹底を申し入れたとのべましたが、F16の飛行航路も把握していません。すでに爆音と低周波の影響など多くの不安の声があります。



北海道経産局に抗議する真下議員ら